

「喜びと情熱のなせる業」

～あなたの原動力はどこから？～

ローマ 8 : 24 ~ 28

みなさんは、自分のことを、普通の人とっていますか？それとも特別な人間だと思っていますか？人生には、たくさん問題が起きます。それは人間が解決できることならば良いです。しかし、過去から振り返ってみて、悲しかったこと、あり得ない出来事、そして今現在も解決できていないことに遭遇することがあります。そんな時、私たちがどう生きれば良いのかの適切な判断ができるかどうか、普通の人と特別な人の違いなのです。今回の聖書箇所には「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。(28節)」書かれているとおりなのです。では、どのように益としてくださるのか…これはその上の箇所に書かれています。「人間の心を探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです(27節)」神さまは「人間の心を探り窮める方」で御霊の思いが何かをよく知っておられます。私たち人間の心をたたくだけではなく、探り窮めているのです。その方が知っている「御霊の思い」とは「喜んで生きる」ことです。そしてこの喜んで生きる私たちの望みは、まだ見えないものです。「目に見える望みは、望みではありません。だれでも目で見ていないことを、どうしてさらに望むでしょう。もしまだ見えないものを望んでいるのなら、私たちは、忍耐をもって熱心に待ちます。(24・25節)」とあるとおりです。普通の人とは、この望みを待つことができません。なぜならば、望みを持つことを忘れたからです。しかし特別な人は忍耐をもって熱心に待つことができるのです。

私たちが、何か行動する時の原動力は「言われたから」「やらないといけないから」「仕方なく」つまり「やらされてる感」で行動しています。だから希望や望みを得るために行動する思いがなくなっています。そして自分がこのような感覚で成長しているから、次の世代に同じ事をして望みや希望が与えられなく、また、持たなくてしまふのです。一般的に、誰かに何かを教える時に「〇〇はダメ!」「××はいけません!」と叱ります。しかし聖書は「ダメ!」と叱っていません。「〇〇だと、××だと神さまが悲しむから。神さまが悲しむことは良くないことだね」と何がどうしてダメなのかを教えるのが聖書に沿った考え方です。聖書の中で、何でも「ダメ!」と言っている人は、人を守るための法律を人を裁くため・陥れるための道具とした「律法学者」「パリサイ人」と呼ばれています。聖書は、そのような砂漠道具ではありません。なぜ自分がこのようになっていたのか、なぜ今の現状になっているのか、それは私たちが悪いのではないということ、また、それしてしまった道からの正しい道への帰り道を教えてくれています。

みなさんは、ヘンリー・ビスカルディという人をご存じですか？彼は生まれた時から足が太根の先ほどしかない障害のある人でした。しかし、彼の両親はヘンリーに「私たちはあなたを誇りに思う」と告げたのです。この両親の一言で望みと希望を持つことができたのです。日本でも有名な野球選手でジム・アボットという人がいます。彼は片腕のバッターでした。彼は小さい時に母親に「あなたは目には見えない美しい右腕の持ち主だ」と言われて育てられました。また、キャロル・シーラーという女性性は、事故で片足を失い義足をはめることになりました。父親は「その足でどうやってプレーするんだ」と尋ねたところ、彼女は「ホームランを打てばゆっくり走っても大丈夫」と答えたそうです。彼女はこの考えを教会で学んだそうです。その人の能力を生かすも殺すもその人の手の中にあるのです。その人が望みを持っていれば、それは実を結びます。だから聖書は喜びと情熱をもって私たちの業を行いなさいと言っているのです。そしてその原動力は希望、望みから来るのです。では、その原動力となる望みはどこから来るのでしょうか？

私たちは、いつも目先のことに捕らわれて望みを見失いがちです。だから**①何かをあなたを変えるのではなく、積み重ねが変える**ことを覚えておきましょう。1942年第二次世界大戦当時、日本はブルネイを3年間統治していました。その間、ブルネイ県と呼ばれ、ブルネイ県知事には木村強氏が任命されていました。就任直後、木村氏は当時のブルネイ国王から「何か希望はありますか？」との問いに「現地のブルネイ人を1人私につけてくれませんか？」とこたえました。木村は、日本の国益だけを考えると占領するのはなくブルネイの発展に力を注ぎたいと考えていたのです。例えば、ブルネイで天然ゴムが採れる事に注目し、現地に工場を建て雇用を生み出したり、道路、電気、通信などのインフラ整備を進めるなどしました。当時、ジャングルに覆われていたブルネイの発展に大きく尽力したそれを実現するためにブルネイ人を側に置き、共に行動することが最善と考えたのです。当時の占領区ではあり得ない統治方法でした。その結果、現在、ブルネイは天然ガスの90%を日本に輸出

しています。木村さん一人の生き方が、日本とブルネイの未来を変えました。聖書でも一人の生き方を尊びます。ですから、私たちも一人の生き方を尊んで生きましょう。尊ばれることは特別なことです。聖書にも「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。(イザヤ43:4)」と書かれています。私たちが高価で尊い生き方を望むかどうかが大切なのです。それは、肩書きや名声や結婚など何か“タイトル”ではなく“積み重ね”の実です。木村さんも何か“タイトル”があつてブルネイを変えたのではなく、何度も交渉を重ねたりアクションを喜んで自ら進んで起こした“積み重ね”が変えたのです。そしてその実は自分が天国に帰った時にしか分かりません。私たちの判断つくところではないからです。また、**②正しいプロセスに恵みの実が結ぶ**ことも覚えておきましょう。聖書箇所【ルカ7:1~7】ここで百人隊長のしもべの病が癒やされたのはなぜだと思いませんか？それは「百人隊長は、イエスのことを聞き、みもとにユダヤ人の長老たちを送って、しもべを助けに来てくださるようお願いした。イエスのもとに来たその人たちは、熱心をお願いして言った。「この人は、あなたにそうしていただく資格のある人です。」と書かれているとおりです。百人隊長は支配する植民地のユダヤ人の長老たちをイエスのもとに送りました。そしてそのユダヤ人たちはイエスのことを快く思っていないでした。しかし、長老たちはイエスに百人隊長の願いを熱心に頼みました。百人隊長はイエス様のことを信じていました。「信仰は望んでいる事から保証し、目に見えないものを確信させるものです。(ヘブル11:1)」とあります。百人隊長は神さまのことを信じて正しいプロセスを少しずつ進めて行ったのです。私達も、少しずつ正しいプロセスを踏んで恵みの実を実らせましょう。ナポレオンもそうでした。ナポレオンが皇帝になると決まった時、クーデターを起こそうとしていた人がいました。それを知ったナポレオンは戴冠式で笑顔だったそうです。クーデターを起こそうとした人はその笑顔を見てやめたそうです。そのナポレオンが言った言葉が「ローマは一日にしてならず」です。ナポレオンはクーデターを起こそうとした人を殺すこともできました。しかし、それをしないで喜んでいました。聖書にも「いつも主にあつて喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい(ピリピ4:4)」と書かれています。私達はいつも喜んでいなければいけません。悪魔は、私達から喜びを奪って、正しいプロセスを少しずつ進めさせずに恵みの結ばないように仕向けてきます。感謝があれば喜びが生まれます。情熱があれば、ちょっとやそっとの妨害に負けません。箴言8:17~19にも書かれています。神さまを求めることは私たちの希望です。ですから喜びと希望を持って情熱を燃やして正しいプロセスを実行しましょう。

そして、**③神さまはあなたの喜びを喜ぶ**ことも覚えておきましょう。イエス様は、どうして十字架にかかったのですか？それは私たちの罪のためです。そして、その罪がきよめられた私たちに喜びと祈りと感謝を与えようとしてくれました。では、なぜ神さまは人間をつかったのでしょうか？私達はなぜここにいるのでしょうか？それは、私たちが喜んでいるのを見たいからです。愛するとはそういうことです。人にプレゼントするのはなぜですか？相手の喜ぶ顔が見たいからですね。天の父なる神さま、イエスキリストを私たちにくださった。それは私たちが喜ぶためです。人を指さして否定したり、逆に自分が否定されたりして争って憎しみや悲しみの罪の中にいる私達を見て、それを愛したかったのです。だから私たちの身代わりとして御子を遣わされたのです。私たちに感謝と喜びを与えて、私たちが笑っている姿が見たかったからです。そしてこの喜びを原動力にして生きましょう。【ゼパニヤ 3:14~17】「シオンの娘よ。喜び歌え。イスラエルよ。喜び叫べ。エルサレムの娘よ。心の底から、喜び勝ち誇れ。主はあなたへの宣告を取り除き、あなたの敵を追い払われた。イスラエルの王、主は、あなたのただ中におられる。あなたはもう、わがわいを恐れない。その日、エルサレムはこう言われる。シオンよ。恐れるな。気力を失うな。あなたの神、主は、あなたのただ中におられる。救いの勇士だ。主は喜びをもってあなたのことを楽しみ、その愛によって安らぎを与える。主は高らかに歌ってあなたのことを喜ばれる。」とあります。だから、今、自分がおかれている環境で喜びと感謝をもって生きてください。そのためイエス様は十字架にかかれたのです。神さまが望んでおられるのは、私たちが喜ぶことです。そしてその喜ぶことで得られる希望を持つことです。その喜ぶ力と希望が私たちの内側にあるすべてのものに活力を与え、ちょっとやそっとの妨害に負けません。そしてそれは次代に継承されて増え広がるのです。